

■令和3年8月（次）定例記者会見内容

日時	令和3年7月29日（木）午前11時～正午
場所	市役所本庁舎第3委員会室
出席者	・市長、総務部長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、健康福祉部長、 教育次長、危機管理課長、企画調整課長、都市デザイン課長、 商工港湾課長、健康課長、市長公室長 ・酒田記者クラブ10社（朝日新聞、読売新聞、河北新報、山形新聞、 庄内日報、NHK、YBC、YTS、TUY、SAY）

■市長発表事項

【第27回酒田市土門拳文化賞受賞者決定のお知らせ】

市長／それでは今日の発表事項ですけれども、1件ございます。第27回酒田市土門拳文化賞受賞者決定のお知らせでございます。資料にも記載してございますけれども、平成6年度から始まって今年で第27回目を迎えることになったこの酒田市の土門拳文化賞でございますけれども、今回、全国35都道府県、124人の皆さんから128テーマの作品の応募がございました。

山形県の方の応募はこのうち6人で、酒田市からの応募は1人ございました。テーマの数は例年並みですけれども、今回は全応募作品の総枚数が3,391枚ということで、この約10年間で毎回の作品の総枚数が3,900～4,000枚程度でございましたので、少し減ったかなとこんな印象を持っております。

応募作品の傾向としましては、現代日本が抱える普遍的な問題とも言えます少子高齢化に伴う命の尊厳の問題、それから大都市の過密と地方の過疎、更には限界集落の問題等を訴える作品に加えまして、発生から10年経過した東日本大震災から復興するまちと人の姿を捉えたドキュメント作品、それからコロナ禍のもと日々閉塞感と不自由さの中でも、何とか前途に希望を見出そうとする人々の切ない祈りをテーマとした作品が多かったとこのように伺っております。

そこで、土門拳文化賞受賞作品についてでございますけれども、本賞ですね、これは「福島祭祀巡礼」というテーマで埼玉県入間市に在住の鈴木渉さん、68歳でございます。鈴木さんは、東日本大震災の2年後から継続して7年間、福島の祭りを記録をしてこられております。それは、ご自身が巡礼者として被災地を訪れる旅であったということでございますが、撮影を重ねる度に、被災者の方々こそ真の巡礼者なのではないかと気づいて、被災地の風景を人々の心の内面に思いを馳せながら撮影をした深い精神性が高く評価されたものとこのように伺っております。

それから、土門拳文化賞奨励賞、これについては3点ございまして、記載の通りそれぞれのテーマでお三方が受賞しております。

この受賞者決定を受けまして、今後の予定でございますけれども、授賞式が9月5日（日）午前10時から土門拳記念館において行うことにしております。今回も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、規模を縮小して感染対策を取った上で、実施を

したいとこのように考えております。

また、受賞作品展を同じく土門拳記念館において開催をいたします。

資料について、写真等は全部、代表的な写真を添付させていただいておりますので、ご取材の方よろしくお願ひしたいなとこのように思います。私からは以上でございます。

■代表質問

【新型コロナウイルスワクチン接種の状況について】

記者／本日は代表質問として、2点お尋ねいたします。まず1点目なのですが、国からの新型コロナウイルスのワクチン供給が滞る中で、酒田市でも集団接種の予約を現在見合わせているところではありますが、受付の再開も含めた今後の接種スケジュールについて、現時点でどのような状況となっているのか改めてお聞かせをお願いします。

市長／はい、ワクチン接種の今後のスケジュールということでございました。7月21日に国から第13クール、このクールという話なんですけど、資料を皆さんのお手元にお配りしていますが、今後のファイザー社製ワクチンの供給見通しというものをご覧いただきたいと思います。クール、だいたい2週間を1クールとみなしているわけですが、第13クールと第14クルールの配送等のスケジュールが示されたところでございます。

全国に供給されるワクチンは、1クールあたり1万箱程度ということで示されておりますが、第9クール以降はですね、あまり変わっていないのが見て取れるのではないかなと思います。第9クール以降としては、一般分としての供給という理解をしております。65歳以上の方が高齢者分というところからすると、64歳以下を対象とした分が、一般分という理解をしておりますが、第9クール以降はその分に充てられるワクチンであるということで、この表を見ていただきたいなと思います。

9月の末、第14クールということになりますけれども、ここまで供給されるワクチンというのが、トータルでいうと103となっておりますけど、約100箱。これは高齢者分も含めてということなのですが、約118,000回を見込んでいるところであります。この量は、医療従事者を除く本市の12歳以上の接種対象者89,500人と見ているのですが、その約66%に相当するものでございます。

現時点で、市民全体の接種率を見通すことがなかなかできないんですけれども、と言いますのは、個別接種分とか、あるいは、今のところ酒田市内の企業で職域の接種をやっている実態はないと思っておりますが、(職域)申請をしている方があってもですね、打っているかどうかは、実は確認できてない。そういった方だとか、あるいは県庁でやったりとか、あれも県民対象ですので、8月からということでしたが、それにどれくらい酒田市民の方が行くかもちょっと見通せないものですから、なかなかデータとしては把握が非常に厳しいのですが、現時点で、希望する全ての市民の皆さんに接種するワクチンとしては、十分ではないと、十分な量ではないというふうに捉えてはおります。

実は昨日、今日で動きがありまして、昨日になりまして、山形県から第12クールこれは8月16日から29日まで発送される分ということで伺っておりますが、そのワク

チン量が示されたところをごさいますして、酒田市では集団接種と個別接種に必要なワクチンは23箱、これは26,910回分ということですが23箱要望したのですが、供給されるワクチンは8箱9,360回分だったということでもあります。この8箱分というのは、表の第12クールの所に反映をさせておりますけれども、昨日までは実は5箱だったわけをごさいますして、昨日、今日資料を大至急また作り直したところでもあります、8箱になったところをごさいます。8箱だと9,360回分ということになります。

今回示されたワクチンの量を踏まえまして、9月以降に実施することが出来る集団接種のスケジュールや、個別接種協力医療機関に配送するワクチンについて、これから速やかに、酒田地区医師会十全堂や地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構などと調整をする必要がございます。従いまして、現時点で今後の接種予約だとか、接種の実施状況について明言できないという状況ですけれども、なるべく早めに決定をして、決まり次第、市の広報あるいはホームページ、LINE等で市民の皆さんにお知らせをしてまいりたいなとそんな考え方でいるところでもあります。

資料の2枚目ご覧いただきたいと思ひます。2枚目裏表ありますけれども、酒田市新型コロナウイルスワクチン接種計画(案)ということで、7月29日現在の案をごさいます。8月1日からピンクで7日まで色塗りしてありまして、これが1回分の集団接種として、我々確保できている、それからこの方々は3週間後に2回目を打ちますので、8月22日以降にまたピンク色の色分けをされた接種日が4日間ございまして、これにつきましては既に予約を受け付けております。

しかしながら、それ以降の状況につきましては、ワクチンの確保が先程、従来5箱と見積もっていたものが、昨日になって8箱になったということがありますが、その5箱の段階では8月11日以降の接種が組み立てられなかったということで、確実に確保出来なかったもので、一応中止ということにしておりますし、9月1日以降についてもこのような状況ですので、ワクチンの確保が決まってからでないとなかなか実施、あるいは予約受付ができないということで、未定の状態として捉えている所をごさいます。

9月以降の接種については、集団接種それから個別接種も並行してやっているわけですが、個別接種についてもワクチンの確保が十分できていないという状況だったものですから、個別接種を行っていただいております医療機関ごとの予約状況を踏まえて、一定の配送量の枠を設けてですね、対応したいと実は考えております。59歳以下の基礎疾患のない方への接種は当面見合わせていただくように、医師会を通じてお願いをしている所をごさいます。

第12クールで今回ワクチン接種8箱ということで示されましたので、ワクチン量、各医療機関の状況等を踏まえまして、これから酒田地区医師会十全堂と個別接種に関する配送量についても調整をしていきたいなと思っております。個別接種に対する配送量がある程度決まり押さえることができれば、残りしっかりと集団接種に回していけるということもございまして、集団接種についても第12クールで示されました8箱、これを踏まえまして医師会それから病院機構と調整を進めてまいりたいなと思っております。

ただ8箱と決まりましたけども、実際いつになったら入ってくるのかということについては、先程の配布資料の最初の1枚目を見ていただければわかるのですが、8月4日にならないと、納入日が決まってまいりません。いつ入ってくるかが確定しないとですね、特に集団接種については予約開始を始められないということもございますので、現時点では今後の状況、接種の状況については明確な実施日、予約の受付、ちょっとできないということで、少し時間をいただきたいなとそういう思いでいるところでもあります。

引き続きですね、国、県に対しましては酒田市の状況を踏まえて少しでも多く確保できるような要望をしていきたいなと思っておりますけれども、集団接種につきましては、11月の末まで、会場の平田会場を予定していますが、ワクチンの配送量を受けてどういう体制でこの集団接種を行うか、個別接種の関係では各医院とかあるいは病院機構ですね、そちらにどれくらい回せるかとかその辺をしっかりと調整をしたうえで進めてまいりたいなというふうに考えている所でございます。

ワクチン接種の今後のスケジュール等については、このような状況だということでご理解いただきたいなと思います。

国の方も、だいたい市町村に、市町村から余った分については削減するんだとか、色々な通知を出したり、あるいはそれを撤回したり、それから調整機能は、山形県、都道府県にお願いするという方針を示したりということで、ここ1日、2日のところでだいたいバタバタとしているようですから、今回8箱になったということは、私どもは5箱ではなあといい思いでしたので、3箱増やしていただいたということに対しては、大変ありがたく思っているところでもあります。

【マリーン5 清水屋の閉店について】

記者／では2点目お尋ねします。マリーン5 清水屋が今月15日をもって閉店しましたが、今後の酒田市の中心市街地への閉店の影響というのをどのように酒田市さんの方で捉えていらっしゃるのかをお聞かせください。また、清水屋閉店後の酒田市としての今後の対応についてもお答えください。

市長／もうご存じの通りマリーン5 清水屋が閉店をされたということで、これまで71年間というんでしょうかね、酒田の中心市街地のまさに中心として頑張っていたいただいたお店が閉じたということは、本当に残念に思っております。商業という面だけでなく、ある意味、酒田祭りの時なども、あそこが、いわゆる清水屋周辺のエリアが祭りのイベントの中心会場でしたので、そういった意味では酒田の賑わいの、ある意味シンボルの存在だったものが無くなったということで、本当に残念だなとこのように思っております。

閉店後の今後の対応ということでございましたけれども、ハローワーク酒田で開催をいたしました再就職に関する説明会に元社員12人のうち11人が参加をしたということをお伺しております。まず元社員の再就職に関しましては、ハローワーク酒田と連携をして万全を尽くしてまいりたいなとそんな思いを持っております。

また、清水屋さんに入店していたテナント20数社あるということでございますが、こちらへの対策といたしましては、本市の商工業振興資金融資制度における店舗改装資

金の活用ですとか、空き店舗情報等の提供を行うことで営業継続を何とか支援をしたいなど、このように考えております。

今後の動向についてなんですが、これから清算手続きを含めて、どういう手順で進んでいくのかちょっと先が見えていない状況でございますけれども、今後の状況ですね、注意深く、市としても見守ってまいりたいと思っております。そして、地元の経済界、あるいは商店街等とも連携をいたしまして我々としては何とか、中心市街地に賑わいをもたらされるような、そういう様々な仕掛けに対して市としてもしっかりと協力をしていきたいなとこのように思っております。

私が市長になりましたから、中町モールを少し改装して天蓋をつけて色々あそこでイベントをやれたりですね、賑わいをあの地域にもたすために仕掛けをしてまいりました。前提としては、清水屋という老舗のデパートがそこにあり、やはりそこは酒田の顔だろうという思いから周りを整備してまいりましたし、にぎわい健康プラザ、前パチンコ店があった訳ですけど、閉門蟄居状態だったものを買取ってあのよう整備をしてやりましたのも、やっぱり思いとすればこれまで酒田の賑わいを支えてくれたエリアですから、今後もずっと賑わって行って欲しいなという思いから、市としても一定の投資をして今日まで至っています。

そういった意味では、ベースであった清水屋さんが無くなったということは、本当に残念でして、そのままにはしては置けないなという思いは強く持っております。ただ、あの、市として何かできるかという、基本的に民間の施設でございますので、そこは今後どういう推移をたどるのか、様々な手続きなども見ながらですね、地元の経済界と一緒に市街地の再生に市が役割を果たすところがあれば、何とか協力をしていきたいなとそんな思いを持っているところでございます。私からは以上でございます。

記者／清水屋さんは民間の一企業であるので、なかなか市が直接というのは難しいというのは理解できるのですが、隣接している駐車ビルというのは第三セクターで市も関わっているもので、それに清水屋さんも入っているかと思えますけれども、市民の皆さんその部分がどうなるのかという部分も、不安というのがあるのかどうか分かりませんが、そういった声もあるかなと思うんですけれども、その部分はどのように考えていますか。

市長／駐車ビルについてはですね、確かに清水屋さんが駐車ビルに対して持っている債権もあるんですよ。その取扱いによって駐車ビルが今後どういう状況になるかということについては、清水屋さんの清算に伴う手続きがどう進むかによって影響を受けてくるんだろうなと思っております。

それをちょっと見定めた上で、今後の駐車ビルのあり方ということについては会社の関係者と協議をしていく必要があるんだろうなと思っております。当然のことながら、清水屋さんの跡地、あの建物、それが今後どういうふうに展開をされていくのかということも、それにも影響が非常に出てくる。そのことも駐車ビルの今後のありように影響を及ぼすと思っておりますので、これからですね、やっぱりその動向を踏まえながら、そちらはそちらとして、これはもう3セクですから市も絡んでますので駐車場のありようにつ

いては、市として議論をしていきたいなどこのように思っております。

記者／市としては、清水屋に関して協力できるところは協力していきたいということだったんですけれども、前に中合さんが撤退した時は、すみません、私の記憶があやふやなんですけども、商店街の方々とかと協議会を立ち上げて、今後どうしていくかという話し合いの場を持って色々考えたりしたということもあって、その時、当時まだ市長は阿部寿一さんだったと思うんですけど、予算も組んでその協議会に対して付けてということで、色々今後どうしていくかという場を設けて、予算措置と協議会の設置ということをやったと思うんですけど、今回はそうしたことは、まだ決まってないかもしれないのですが、今後そうしたことをやっていくお考えはあるのでしょうか。

市長／先程も言いましたけれども、これから清算手続きが入ってくるんだと思うんですね。そこは、前とは全然違うと、もう無くなっちゃったという前提に今回はなりますので、その上でありますけれども、その後どうするかについてはですね、地元の経済界の皆さんの動きを見極めながら、必要であればそういう場というものもしっかりと作って行かなければいけないのかなと思っております。

私どもは、やはり、あの一角だけでなく、中町周辺を今後、市としてまちづくりの一つの戦略としてどのような形で持って行かなければいけないのかという、ランドデザインが問われてくるんだろうなと思います。確かに、中心市街地の活性化計画とか、立地適正化計画とか大雑把な枠としては計画はあるんですけども、具体的に年限を見定めてどういうまちづくりをするのかということについては、当然問われてきますので、経済界の皆さんとそういう議論を踏まえた上で、清水屋周辺をどうもっていくのかということ、やはり協議をする場はどうしても必要だなと思っておりますし、そういった場を踏まえて、皆さんの声を聞いた上で、実は総合計画の見直しが今年から作業が入ってまいります、前期5年間で間もなく終わりますので、来年、再来年が後期に入っていくのかな。なので、今年と来年度で総合計画の後期計画に向けた見直しをしますので、当然そこにも大きく関わってくる話ですから、そういう意味では是非、そういう場というものを、場合によってはですねしっかり設けてそこで皆さんの議論を踏まえて、次の中心市街地のまちのありようについて、見定めていく必要があるのかなとそんな思いを持っているところであります。